

バレーボール部

「考えるバレー」を基本に、 石川県内私立中学校で初の創部

バレーボールは、ボールをコート上に落とさないように仲間につないでいくスポーツです。このバレーボールを通して、中学時代から、思いやりの心を育て、感謝の気持ちを素直に伝えられる、そんなチームを目指していきます。

石川県内の私立中学校では初めてのバレーボール部となり、高校や大学のバレーボール部とも連携を図りながら、ハイレベルな技術や考え方を身に付けてもらいます。



スパイクの基本を示す石坂監督(右)は大学バレーボール部のコーチも務める=金沢学院大学第一体育館

中学時代は身体も子どもから大人へと変化する大事な時期であり、基礎体力づくりと合わせて、バレーボールの基本的な取り組み方や技術を徹底的に指導していきます。とりわけ、身体を単に動かすだけでなく、頭を使って「どうすればうまくいくのか」ということを部員自身が考える姿勢を基本に据え、全国大会出場を目指します。

チームポリシー *policy*

1. 部活動だけでなく、勉学との両立を目指します
2. 人間教育を第一に考え、自主性・協調性など社会に必要な態度と能力の向上を目指します
3. バレーボールの楽しさ、魅力を味わいながら健全な心身の成長を目指します

NEWS

金沢学院大学附属中学校バレーボール部の石坂沙織監督は2021年度から大学バレーボール部のコーチも兼任し、大学体育館での練習に参加しています。選手を指導するのは初めてで、「自分の思いがどうしたら選手に伝わるか、日々勉強です」と語り、22年度からの中学バレーボール部のスタートに意欲を募らせています。

指導者の胸の内

「楽しむこと」こそが上達の近道



PFUブルーキャッツ所属時代の石坂監督 ©2019 PFU Limited

私は、長崎県選抜チームの一員として全国優勝した中学時代を皮切りに、高校、大学時代にも日本一という大変恵まれた経験をさせてもらいました。そこで感じたのは、強いチームはどんな劣勢な場面でも、勝負を楽しんでいるということです。目の前の強い相手に立ち向かっていく、自分の技術が試合でどこまで通じるか試す、などプレッシャーがかかる場面でも逆にワクワクして楽しんでいるのです。これが勝敗のかかった場で1点を取れるかどうかの分かれ道だと私は思います。もちろん、試合で勝つには技術面やメンタル面を鍛えていく必要があります。毎日の練習で、生徒自身がバレーボールのおもしろさや魅力を感じられるような指導を行います。

石坂 沙織 監督

東九州龍谷高校、鹿屋体育大学卒。2015年から現在、V1リーグの「PFUブルーキャッツ」に所属し、20年に引退。2019/20シーズンは主将を務める。

一番の思い出

高校時代に春の高校バレーで優勝したことです。高校時代はほとんど試合に出る機会がありませんでしたが、私が3年生の時に春高バレーが3月開催から1月開催に変更となり、3年生も春高バレーに出場できるようになりました。3年生として出場した春高バレーで、高校時代では初のスターティングメンバーになり、しかも優勝できたという経験は自分にとって大きな財産となっています。

練習場所

金沢学院大学附属中学校体育館、及び、大学、高校関連施設

活動予定

週5日～6日、練習予定で、1日2～3時間。月1回のペースで勉強会。週1日休日。

さあ、コートを楽しく
走り回りましょう!



©2019 PFU limited